

**Kendai** [秋田県立大学広報誌]

# イスタ

**Akita Prefectural University**

Vol. 5

03-06 スペシャルインタビュー

## 県立大学と関わる 地域の人たち

- 01 NEWS&TOPICS
- 02 学生自主研究
- 07 INFORMATION





全学

## 01 自治体との連携協力協定が進む

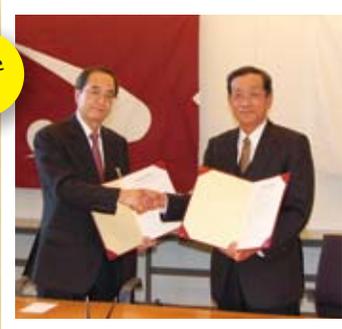
本学は潟上市・由利本荘市・にかほ市・大潟村の4自治体と、人材育成・産業振興・地域づくりなどの様々な分野で相互に協力すべく、連携協力協定を締結しました。今後はこの協定に基づき、大学と自治体が有する資源や情報、研究成果を活用することで地域社会の発展や産業振興に寄与するため、地域住民を対象とした公開講座等による人材育成、それぞれが推進する事業や政策への助言・協力などに取り組みます。



## 02 秋田県立図書館との相互協力に関する協定を締結

全学

本学図書・情報センターと秋田県立図書館は、互いの異なる蔵書を活かし、地域一体となった資料の充実とサービスの拡大を目指すため、12月16日に相互協力に関する協定を締結しました。本学図書・情報センターは自然科学・技術工学・農学分野の蔵書数を有し、秋田県立図書館は文学を中心に幅広い蔵書数を有するほか郷土資料が充実しています。協定を結ぶことで互いの蔵書構成が補われ、両図書館の利用者がそれぞれの蔵書を相互に利用できるようになります。



## 03 加藤夏希さんをキャンパス大使に任命!!

全学

テレビ番組などで秋田県を大きくPRしていただいているタレントの加藤夏希さん(由利本荘市出身)に「秋田県立大学キャンパス大使」を委嘱し、本学の魅力のPRにご協力いただくことになりました。10月26日に本荘キャンパス大学祭(潮風祭)で行われた委嘱式では、小林俊一学長から委嘱状、名刺などが手渡され、「県立大学を、県内・国内はもちろん世界に広めていきたい」と抱負を語りました。



本荘 campus

## 04 バドミントン部を学生表彰!!

学生表彰を1月28日に本荘キャンパスで行い、バドミントン部を表彰しました。秋田県学生選手権大会の男子1部ダブルスで優勝するなど、数々の大会で好成績を収めたことに加え、クラブチームとの合同練習や地元高校での指導、各種市民大会への参加など、地域との交流を意欲的に進めていることも評価されました。



本荘 campus

## 05 「第9回 北東北『川・水環境』ワークショップ」でカヌー一部の活動成果発表がグランプリを受賞!

1月31日と2月1日に由利本荘市で「第9回 北東北『川・水環境』ワークショップ」が開催され、「カヤックで水を川を知ろう」と題して発表した「本荘由利カヌークラブ・秋田県立大学カヌー部」の活動成果が一般の部でグランプリを受賞しました。このワークショップは、北東北3県の一級河川沿いの市町村で毎年開催されていて、今回の受賞は子吉川での水遊びを通じて、子どもたちの川や水への理解を深めるための10年間にわたるサポート活動が認められたものです。  
(関連記事5ページに)



本荘 campus

## 06 高梨助教が日本AEM学会奨励賞を受賞!!

機械知能システム学科の高梨宏之助教(人間支援メカトロニクス研究グループ)が11月21日、「平成20年度日本AEM学会奨励賞」を受賞しました。受賞研究は「カテーテル先端装着型3次元抗力センサの開発」。医療手術でカテーテルを挿入した際の操作性・安全性の向上を目的としたもので、カテーテル先端部が体内壁に接触したときの荷重と先端の姿勢を直接計測できるセンサを提案しています。



秋田 campus

## 07 小川敦史助教が「根研究会賞学術奨励賞」を受賞!

生物生産科学科の小川敦史助教が「2008年度根研究会賞学術奨励賞」を受賞しました。受賞研究は「浸透圧ストレス条件下での作物根の生育における生理学的研究」で、これまで曖昧であった浸透圧調節の機構の一端を、溶質蓄積の経時変化から明らかにしたほか、細胞死と細胞分裂の動態の視覚的な解析も可能にしています。さらに、研究成果として低カリウムホウレンソウの栽培法などを確立しました。



秋田 campus

## 08 生物資源科学部と山西大学環境与資源学院との学術交流協定を締結

2008年11月13日、本学生物資源科学部と山西大学環境与資源学院(中国山西省)は、人的交流・学術交流・共同研究を行うため、学術交流協定を締結しました。今後は日中の環境問題、資源問題について学術的、人的交流を進め、双方の環境教育と研究の充実を図っていくことが期待されています。



大潟 campus

## 09 全国の農業系サークルが交流

1、2年生15人が昨年10月から準備をすすめた薫風・満天フィールド交流塾「雪まつり」が、2月20日～23日に大潟村で開催されました。全国9大学の農業系サークル学生28人が来県し、県大生と共に地域農家での農業体験や雪あそび・なまはげ体験をしました。また、各々のサークル活動の報告のほかに、今夏に開催予定の「全国農業系学生フォーラム(仮称)」についての活発な意見交換も行われ、充実した4日間を送りました。



木材高度加工研究所

## 「ストップ温暖化『一村一品』大作戦 2009」にて、特別賞受賞!

本学の木材高度加工研究所や企業、自治体が協働で木製の橋やダム開発に取り組む「木質土木構造物研究会」が、環境省主催の「ストップ温暖化『一村一品』大作戦2009」で特別賞を受賞しました。「秋田スギの木製ダムでCO2ダイエット」と題して発表した取り組みは、秋田スギの間伐材をダムの堤体にする事で、資源の有効利用だけでなく木材が吸収した二酸化炭素を長年固定できるほか、工法も簡易である点などが評価されました。

## 10

# 学生自主研究

STUDENTS' VOLUNTARY RESEARCH PROJECTS

## アクティブに挑戦する学生たちを紹介。

学生自主研究は1、2年生が研究費をもらって行うことができる制度。興味深いテーマに対して、自分たちでグループを組織し、計画を立て実施。

Isuna.

システム科学技術部：機械知能システム学科

研究グループ名 ロボット大好き知能化グループ

研究名 「自律ロボットの知能デザイン」に関する研究



本荘キャンパス

Report.1



**Q** 研究の目的を教えてください。

**A** ペットロボットやお手伝いロボットなど、人間と共生して日常生活をサポートするロボットの実現が求められています。このようなロボットには、工場の生産ロボットのように常に同じ動作を実行するだけでなく、自ら判断し行動させる必要があります。そこで私たちは、プログラミング可能なロボットを用いて、未知な環境や状況に適應できる自律ロボットの知能をデザインすることを目的に研究を行いました。

**Q** 研究の内容について教えてください。

**A** 市販のキットを利用して廊下を走らせるロボットを組み立て、そのロボットを自律走行させるためのプログラミングの開発を行うことが研究の内容です。通路途中の障害物の位置を変えても回避できること、走行している位置を常に認識できることを目指しました。苦心しながら考えた結果、障害物の位置が変わっても左右の壁との距離を比較して、距離が大きい方から回避するプログラムをつくり、目標をクリアできました。研究を通じて、廊下を走るという単純な動作も、ロボットには非常に難しいことだと実感しました。

**Q** 研究の楽しさ、やりがいは？

**A** 研究は進めれば進めるほど奥が深いもので、気がついたらハマっていました。時間も忘れて夜な夜な研究に打ち込んでいたこともありました。そして、うまくいったときの喜び、やり遂げた後の達成感は何とも言い表すことのできない最高の気分でした。また、仲間同士で決めた一つの目標に向かって、時には私たち3人だけでなく先生や先輩とも議論し、協力しながら進めていくことで、仲間の大切さも学びました。ひとりでは到底解決できない問題でも乗り越えられたのは、やはり仲間がいたからだと思います。

**高橋 聡**

北海道出身 / 北海道旭川東栄高校

日に日にロボットの頭が良くなってきたので、ロボットに支配されるか心配でした。

**中川 義隆**

愛知県出身 / 愛知県立豊田高校

ホンダ社のASIMOを作ったような気分になりました。まさに夢心地！知的なロボットを作るにはアルゴリズムが最も大事だと思いました。

**野村 拓未**

青森県出身 / 青森県立青森南高校

現在のロボットは自動で動くものが多いだけに、自律ロボットの知能のデザインは重要なことだと感じました。



秋田キャンパス

生物資源科学部：応用生物科学科

研究グループ名 ザ・ブレッド

研究名 小麦以外の原料でパンを作る

**Q** 研究の目的を教えてください。

**A** 小麦粉以外のデンプン原料を用いて多様な消費者ニーズに対応できるパンを作ることを目的としました。小麦粉の代替となるような原料の探索と、それらを用いたパン製造の条件を明らかにして、個々の食品原料に由来するデンプンと蛋白質を組み合わせ、栄養機能、食感機能などの高いパンの開発をしました。



**Q** 研究の内容について教えてください。

**A** 小麦粉以外にも米粉・サツマイモ・ジャガイモ・トウモロコシ・ソバなどの原料とグルテンなどを組み合わせて、パンを製造するための条件を明らかにしようとしました。いろいろ試したところ、ジャガイモを原料としたパンが予想外においしいパンになることを発見しました。そこで、よりおいしいパンを作るために最適なグルテンとデンプンの配合や水の量を調べました。また各種原料を用いたパンを試作し、その食味を官能検査や物性測定によって調査しました。

**Q** 自主研究活動の良いところを教えてください。

**A** 大学の協力のもとで、1年生のときから自分の好きなことや疑問に思ったことを研究できることです。専門的な機械を使って実験したり、先輩の実験で官能検査と一緒にさせてもらったりしたことで、さまざまな知識を身につけることができました。また、先輩方の実験をしている様子をみながら行うことで、3年生や4年生になってからのことを想像しやすくなりました。



Report.2

**黒澤 隆紀**

秋田県出身 / 角館高校

食品科学研究室で自主研究を行うことで、自分の研究をすることはもちろん、先生や先輩方の研究を間近で見ることができ、多くの経験を積むことができました。

**鈴木 大志**

秋田県出身 / 横手高校

普段何気なく食べているパンを物性測定などによる科学的視点で研究することで、さらに食品について興味を持つことができました。



スペシャルインタビュー



# 県立大学と関わる 地域の人たち

秋田県立大学は今年で開学10周年を迎えます。これまで本学は"地域に根ざした大学"を目指して、地域とさまざまな交流を行ってきました。そこで今回は、地域の方々へ交流の様子や県立大学への思いをうかがいました。



01  
SPECIAL



Akira Tsutsumi

堤 朗 つつみ・あきら

大潟の自然を愛する会 / 会長

平成12年発足。会員37名。大潟村内外での自然観察会、環境保全、環境再生活動に取り組んでいます。子供たちに自然の大切さや素晴らしさを伝えるため、専門の講師を招いて活動しています。

●連絡先/南秋田郡大潟村東2-4-2 TEL.0185-45-2527

**Q** 県立大学と関わるようになったきっかけ又は経緯と、一緒にどのような活動を行っているか教えてください。

**A** 9年前「大潟の自然を愛する会」を立ち上げたばかりの頃、「大潟村環境創造21」から県立大学の谷口吉光先生を紹介していただいたのがきっかけでした。先生が田んぼの生き物調査の圃場を探していたので、私の自然農法の圃場を提供し、約5年間、生物資源科学部の学生と手探りで調査しました。それから学生とも親しくなり、私の会を手伝ってもらったり、入会してくれたりして現在にいたります。最近では昨年の卒業生が、鳥海山獅子ヶ原湿原を講師として案内したり、在学生が外来魚の観察会で、バス料理を手伝ってもらっています。

**Q** 大変だったエピソードなどありますか。

**A** 大変だったことはなく、楽しい思い出ばかりです。逆に学生から大学で学んでいることを教えてもらったり、なにより若者が自然や環境に興味をもっていることに興味しています。ブラックバスの学習会では、いつも活発な学生が女性会員と20kgのバスを、エプロン姿で手際良く調理して、ヒヤカしたことが楽しいエピソードで思い出されます。

**Q** 今後、県立大学と一緒にやってみたい活動はありますか？

**A** 「大潟の自然を愛する会」の活動に、学生の皆さんが積極的に参加していただきたいこと、自然環境や生き物調査を通して学んだ自然の大切さや素晴らしさを、一人でも多くの子供たちに一緒に伝えて行けたらと思います。

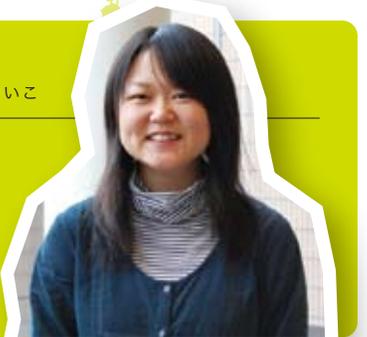
大潟から自然を学ぶ  
自然の大切さ、素晴らしさを  
県大生と一緒に伝えたい。



橋本 圭子 はしもと・けいこ

●生物資源科学研究科  
●遺伝資源科学専攻  
博士前期課程 2年

先輩を通じて田んぼの生き物調査をしたのがきっかけで、会に参加しました。常に本物の自然に触れられて、色々な視点で環境や自然について見ることができるようになりました。大変だったのは、秋田弁が分からなかったことです(笑)



施設紹介

セミナーハウス

学生が様々な用途に応じて、利用しています！



車で秋田キャンパスから約60分、本荘キャンパスから約80分。協和スキー場のすぐ側に格安の料金で利用できるセミナーハウスがあります。ゼミナール、部活・サークルの合宿、課外活動などに使えます。



●施設の概要

(研修棟) 研修室、談話室、食堂、浴室、事務室、管理人室  
(宿泊棟) 和室6畳5室、12畳1室 ※宿泊収容人員30人

●利用料金

本学の学生が、正課の授業や合宿研修、学生団体の合宿で使用する場合は施設利用料は無料です。ただし、食事が必要などときは実費負担で、施設予約時に申し込んで下さい。

●所在地/秋田県大仙市協和船岡字前田表191番地

後世に伝える「竿燈囃子」  
竿燈を通じて秋田の魅力を  
発見し、吸収してほしい。

**Q** 県立大学と関わるようになったきっかけ又は経緯と、一緒にどのような活動を行っているか教えてください。

**A** 県立大学とは、平成17年の竿燈説明会の時に、県立大学竿燈会の方から参加の依頼があったのが最初のきっかけでした。竿燈囃子は昔、教えてもらうというより、見よう見まねで伝承していましたが、それをまた後世に変わることなく伝えていきたいという願いで、現在は週に1回、市内の児童館で約2時間の練習をしています。囃子を覚えたもの同士が確認しあい、太鼓のバチさばきや笛の節回しなど、お囃子の腕を磨いています。

**Q** 会の活動を通して、学生とのエピソードはありますか。

**A** 太鼓の準備や片づけも率先して行い、チームワークもよく時間も守ってしっかりやっています。太鼓と笛の練習が中心ですが、年数回行われる懇親会にも積極的に参加して、正会員に祭りの考え方や妙技会の心構えをメモに取って聞き入っているのはビックリしました。その食欲さが県大チームの強さの秘密だと思いました。町内の若者にも見習ってもらいたい所です。

**Q** 県立大学や学生に、エールや要望などお願いします。

**A** 竿燈を通じて、若い方が秋田の文化の魅力を発見・吸収していることに、大変嬉しく思っています。妙技会への熱の入れようも、良い意味で応援させていただいています。要望としてはやはり、大学生活の4年間だけといわず、その後も秋田の社会においてよい人材として貢献していただき、また、竿燈祭りでも末長く活躍していただきたいと願っています。



Hirotsu Hasebe



長谷部 博人 はせべ・ひろと

秋田竿燈囃子愛好会 和奏会 / 代表

平成12年発足。竿燈祭りのお囃子の愛好者が集い、江戸時代から各町内に伝わる竿燈祭りのお囃子を保存、伝承することを主な活動とし、秋田市竿燈会に対して協力するとともに、会員相互及び竿燈祭りを愛する全ての者と親睦を深めるための会です。

●連絡先 / TEL.090-2604-6138 (長谷部)

茂呂 綾子 もろ・あやこ

●生物資源科学部  
●応用生物科学科 3年



竿燈祭りで隣になった町内会の方に、和奏会を紹介されたのがきっかけでした。お囃子の練習を通して、様々な町内に知り合いができ、練習そのものが楽しく感じています。もしも、学内での練習のみであれば、今の自分はないと思います。

炭焼きと松がつなぐ交流  
県立大学とともに  
「夕日の松原」を守りたい。

**Q** 県立大学と関わるようになったきっかけ又は経緯と、一緒にどのような活動を行っているか教えてください。

**A** 大学の学園祭の講演で、「先人が植栽した貴重な松原を松枯れから守ると同時に、被害木の松を炭化させる過程に発生する木炭や木酢液を有効活用する」という内容に共鳴し関わることにしました。現在、大学に隣接する松林内にボランティアも協力し「炭焼き窯」を2基造ってあります。年間を通じて、3週間に1回程度のサイクルで炭焼きを実施しています。参加者は森林科学研究室の先生や職員、学生さん、ならびに民間ボランティアの皆さんです。

**Q** 今後の会の活動予定を教えてください。

**A** 現在は被害木の一部伐採と炭焼きが主な活動ですが、昨年の秋からボランティア会員が被害木を観察できるように、県立大学の学生さんから学んでおります。今年の春からは会員が班を編成し、独自に行動する計画になっています。今後は県立大学の先生からの指導を仰ぎ、海岸林・防砂林として先人が残してくれた緑豊かな「夕日の松原」をどのように守り、活用するかが課題になります。

**Q** 県立大学や学生に対する、エールや要望などお願いします。

**A** 大学祭で、学生さんが研究内容を発表するコーナーや、研究室・実験の公開、模擬講義などを毎年楽しみにしています。これらを見学することによって大学に対する関心も高まり、地域住民との連携も強まることと感じています。また、県立大学で学び育っていく学生さんが、縁を育てて地球を救う人材になっていただきたいです。



Katsuo Kawamorita



川守田 勝雄 かわもりた・かつお

炭焼きで夕日の松原まもり隊 / 副会長

松枯れ被害木を調査・伐採し炭焼きを行うことを通じて、自然環境の関心を高め、豊かな自然の恵みの良さを次世代に引き継いでいくことを目的としています。県立大学と民間のボランティアが協同で活動している団体です。

●連絡先 / 秋田県立大学：森林科学研究室 TEL.018-872-1608



品川 朋仁 しながわ・ともみ

●生物資源科学部  
●生物環境科学科  
2009年3月卒

入学してすぐ、小林一三先生に紹介されて参加しました。炭焼きを通して地域の方と関わり、秋田の食文化、昔話など教えてもらい、秋田により愛着が湧きました。県外出身でありながら、「秋田のどこ出身?」と聞かれるまで秋田弁が上達しました。



ちょっといい科学の話

カフェインを知っているか?

生物資源科学部応用生物科学科 助教 / 常盤野 哲生

私の所属する研究室では、漢方薬に含まれている成分を調べて、ガン細胞の増殖を抑える作用や抗菌性などの「生理活性」を示す化学物質を探しています。「天然物化学」という科学の分野では、動植物が有する薬や毒の成分を医薬・農薬の方面に活用する研究が古くから行われてきました。大学の化学実験でよく題材にされるのは、コーヒー・お茶からのカフェインの抽出でしょう。授業で学生たちは「初めてカフェインを見た」「割と簡単に抽出できるんですね」といった感想を持つようです。教科書には

カフェインの元素組成や分子の構造、コーヒー1杯に含まれる量などが記されており、読むと納得した気分になります。しかし、そのような情報を覚えることよりも大事なことは「実験で得られた物質がカフェインであることを、どうやって証明するのか?」と問うことです。カフェインに限らず、生理活性物質の分子の構造は、どのように決定されたのでしょうか?誰も目で分子を見たことはありません。答えに至る過程と、そこに必要な科学の「考え方」を学んで初めて知識として役に立つのです。



カヤックで水を川を知ろう  
学生と技術を習得しあひ  
共に成長しています。



Q 県立大学カヌー部との交流のきっかけは何ですか？  
また、一緒にどのような活動をしていますか？

A 県立大学の開学に伴い、知り合った山口博之先生（電子情報システム学科准教授）を通じ、ぜひ一緒にカヤックを楽しもうと一期生に働きかけて、カヌー部が創設されました。以来10年間、技術を習得しあひ、毎年恒例の岐阜県長良川への遠征などを楽しみ、共に成長しています。また、子吉川での水遊び（カヌー教室や川下り教室など）を通じて、子どもたちの新たな視野の獲得と川や水への理解を深めるサポート活動にも協力して取り組んでいます。

Q 県立大学カヌー部との交流で印象に残っているのはどんなことですか？

A 一緒に活動してきて3年目の頃でしょうか、学生たちが「自分たちでここまで川を下ったよ」と自分の責任で遊べるようになりました。また、全日本選手に学生たちから話しかけて友だちになっていました。そういう光景を見たときに、学生の自立を実感し、一緒に活動してきて良かったなと思いました。

Q 今後、県立大学と一緒にやってみたい活動はありますか？

A 県立大学をはじめ県内の大学と連携して、水の科学性（組成や流体力学）や、水の精神性（文学・歴史）など、現象のもとにあることを総体的に学びあう機関、「水の学校」を目指していきたいと考えています。



Kenichi Komatsu

小松 兼一 こまつ・けんいち

本荘由利カヌークラブ／代表

地域のカヤック好きの社会人15人が、カヤックをととして「水に自然に学ぶ」ことを目的に結成したクラブです。「会則は少なく、自己の責任において自主的に楽しみながら」をモットーに活動しています。

●連絡先／由利本荘市赤沼下397-2 TEL.0184-22-2111（御食事と喫茶 こまち）



佐々木 惇也 ささき・じゅんや

●大学院システム科学技術研究科  
●機械知能システム学専攻  
博士前期課程 2年

岐阜県長良川への遠征の時、初心者だった私は何度も転覆し、その度にクラブの方々に助けられ、親睦は一気に深まりました。川を下り終えたそのときの喜びは忘れられません。アグレッシブなクラブの方々と活動しているうちに、何度失敗しても諦めないチャレンジ精神が身につけていました。



ミニかまくらづくりを通じて  
学生に「遊び」を提供したい。  
体験の場を提供したい。

Q ミニかまくらづくりを始めたきっかけは何ですか？  
また、学生とはどのように交流していますか？

A 「本荘に大学を！」は地域の悲願でしたので、開学の時に全国から集ってくる学生たちを歓迎する意味を込めて、本荘キャンパス前でミニかまくらづくり「ホップ・ステップ・キャンパス」を開催しました。学生や地域住民にも好評でこれまで10回開催しています。常連の漫画アニメ研究部の学生さんたちは、イベント終了後の懇親会でも楽しく交流しています。

Q 地域にとってどんなことがプラスになっていますか？

A 私たちの活動コンセプトは、「遊び」を通じて様々な体験をすることなので、夢中になることが一番大事だと思っています。ですから、遊び始めると勢いづく学生のノリは見ていて楽しいし、大いに助かっています。

Q 今後、県立大学と一緒にやってみたい活動はありますか？

A 県立大生が地域の子どものために科学を体験させたり、地域の子どもたちが県立大生に由利本荘の歴史や名所を紹介したりするなど、遊びの中にも学習的な要素を取り入れた活動ができればと思っています。

Q 県立大学や学生に対するメッセージをお願いします。

A 私たちメンバーは、学生さんたちを自分の子どものような気持ちで見たいです。勉強はもちろんですが、由利本荘での学生生活を大いに楽しんでもらいたいと思います。私たちにできることは、いくらでもお手伝いします。ぜひ声をかけてください。



田中 悠子 たなか・ゆうこ

●システム科学技術学部  
●経営システム工学科 4年

かまくらがロウソクの灯りに照らされた光景を見ると寒さや疲れなど忘れてしまいます。打ち上げの飲み会も密かな楽しみです。お酒を飲み交わしながら地域の皆さんの県大生に対する思いを聞いて、親の愛のようなものを感じました。



Takao Togashi

冨樫 隆夫 とがし・たかお

みなみうつ  
南内越アドベンチャースクール／こうちょう（代表）

元PTA会員や昔の青年会仲間によって平成7年に発足しました。ミニかまくらづくりをはじめ、サイクリング・川でのカジカ捕り・模型飛行機づくりなど、「遊び」を中心とした体験の場を地域の子どもたちに提供しています。役職名は「こうちょう」「きょうむしゅにん」など、学校と同様の名称を使っています。

●連絡先／由利本荘市畑谷字大坪122-1 TEL.0184-22-5198

サークル紹介

木匠塾（もくしょうじゅく）

木と建築を通じて地域と交流しています

私たち「木匠塾」は、建築環境システム学科の学生有志40名ほどが集まったサークルです。木を用いた作品の製作活動などを通して、体験的に「木」と「建築」について学ぶことを目的とした活動を行っています。

●建築環境システム学科 4年／鈴木伸吾



●夏休みは仙北市角館を中心に製作活動

毎年夏休みには仙北市角館を中心にサマースクールで活動し、これまで休憩所やベンチなどを製作してきました。これらの作品は、仙北市の角館温泉「花葉館」や角館の河川敷に設置して地域の方々に利用していただいています。

製作活動を通して感じることは、実際にノコギリなどの道具を使うことで手を動かす楽しさです。また、小さいものでも考えた作品が実物になることは、苦勞もありますがそれ以上の充実感があります。



Yuzemon Inomata

猪股 與左衛門 いのまた・よざえもん

三ツ方森の山焼きを残す会／代表

山焼きは、山の枯れ草を焼くことで灰が肥料となり、新芽が豊かに芽吹くとともに害虫の卵の駆除にもなります。由利本荘市の三ツ方森で約300年続くこの伝統行事も集落の過疎化で存続が危惧されていました。そこに麓（ふもと）の石沢地区の人たちが加わり、平成12年に残す会を結成し、以来山焼きを主催しています。

●連絡先／【事務局】石沢公民館 由利本荘市館字中島372 TEL.0184-29-2111

Q 山焼きに学生が参加するようになったきっかけは何ですか？

A 本荘市（当時）は平成15年4月から、本荘キャンパスの学生に第二のふるさととして愛着を持ってもらおうと、「絆の里づくり」という事業を始めました。その一つとして、市の方から大学に山焼きへの参加を呼びかけたのがきっかけです。それ以来、毎年学生の皆さんが山焼きに来てくださるので、とても助かっています。

Q 学生との交流で印象に残っているのはどんなことですか？

A 学生さんにとって、火種を持って山に火をつけて歩くのは大変難儀な作業です。煙で涙が出ることはもちろん、熱さにも耐えなければいけないのですから。これ乗り越えようと頑張っているところを見ると感謝でいっぱいです。作業終了後、真っ黒になって苦勞が快感に変わった姿には「ありがとう」という気持ちです。その後の慰労会で会話が盛り上がることも楽しさがあります。

Q 地域にとってどんなことがプラスになっていますか？

A やはり山焼きという伝統行事の支え手が増えたことが一番です。しかも、学生という若い力なので、急な斜面の上り下りがある山焼きには、大きな力となっています。また、この山焼き体験を持ち帰ってもらうことで、全国に三ツ方森の山焼きを広めることになるのではないかと思います。

Q 県立大学や学生に対するメッセージをお願いします。

A 開学10周年おめでとうございます。学業も大変だと思いますが、せっかく由利本荘市にいますので、地元の人とこれからも交流して、お互いの活性化につなげていってください。これからも山焼きをよろしくお願いします。

三ツ方森の山焼き体験  
三百年の伝統行事で  
頑張る県大生に感謝。



櫻井 貴之 さくらい・たかゆき

- システム科学技術学部
- 電子情報システム学科 4年

写真部の先輩に誘われて参加しました。広大な山を焼きながら移動することは一苦勞ですが、会の皆さんがきちんと指導してくれます。伝統を守ることの大切さ、そして人間関係をつくる上で住んでいる地域の人と交流することの大切さを感じました。



真冬の伝統行事「裸まいり」  
将来は子どもを連れて  
三軒町を訪ねてほしい

Q 裸まいりではどのようなことをしているのですか？また、県大生を受け入れたきっかけは何ですか？

A 裸まいりでは、町内の若衆と一緒に早朝の寒気の中、水ごりを取り、町内を一周して新山神社を目指します。「ジョヤサ、ジョヤサ」と奉納品をもって参道を駆け上がる姿は勇壮です。平成14年まではミネソタ州立大学秋田校（平成15年3月閉校）の学生さんを受け入れていました。その後、市の「絆の里づくり」事業が始まり、平成16年に市役所を通じて大学に呼びかけてから県立大学との交流が進みました。それからは毎年10人前後の学生さんが参加してくれています。

Q 県大生との交流で印象に残っているのはどんなことですか？

A 県立大学の学生は地元のみならず全国から集まっているので、懇親会のときに風習や方言等でお互いにカルチャーショックを受け、刺激しあうのが面白いですね。居ながらにして全国を旅行しているような趣があります。

Q 今後、県立大学と一緒にやってみたい活動はありますか？

A 裸まいりの前日の午前中には、準備のためにもちつきやしめ縄づくり、井戸周りの雪寄せをしています。もちつきは昔ながらの杵と臼を使い、千個のもちを8～9回ほどでつくります。特に、女子学生や留学生に体験してほしいと思います。

Q 県立大学や学生に対するメッセージをお願いします。

A 県大生を「ありがたい。よく来てくれた」という気持ちで受け入れています。卒業して家庭を持つようになったら、子どもを連れて三軒町をまた訪ねてほしいですね。



写真：中央が佐々木会長、左が橋本副会長、右が会計の藤嶋さん

金塚 靖 かなづか・やすし

- システム科学技術学部
- 建築環境システム学科 3年



バスケットボール部の仲間からの誘いがきっかけで、1年生のときから参加しています。静岡県出身の私にとって、雪の世界自体に想像もつかず、ましてや裸で歩くというのは衝撃でした。地域の方々とふれあうことで、コミュニケーションの大切さを実感しています。この経験は社会人になってからも生きると思っています。



金大輔（機械2年） 三浦貴文（機械3年） 金塚靖

佐々木 武一 ささき・たけかず

由利本荘市石脇地区三軒町町内会／会長

三軒町町内会は、岩城亀田藩の川港町として発展した由利本荘市石脇地区にあります。約70世帯の町内ですが、歴史は古く伝統行事も多いのが特徴です。1月は山伏修行そのままの「裸まいり」、5月は新山神社祭典での「石脇神楽舞」、7月は三軒町内の氏神様「神明社の宵宮祭」など、そのたびに町内は一丸となります。一声かければ駆けつける「集まり好き」がそろった町内です。

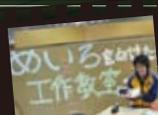
●連絡先／【由利本荘市絆の里づくり事業担当】由利本荘市企画調整課 TEL.0184-24-6226

●大学祭では木工教室で子どもたちと交流

毎年10月の大学祭では「木工教室」を開催し、地域の子もたちとも交流しています。昨年の木工教室では写真立てを子どもたちと製作しました。一人ひとりが個性のある作品を、時間をかけて一生懸命作っていました。なかにはお父さんお母さんの方がはりきっている親子もいて、参加した方々それぞれが楽しんでいました。

また、アトラクションの「ダンボール迷路」も好評でした。真っ暗な入り組んだ通路を一人で進む子もいれば、親子や学生と一緒に楽しむ子もいました。一度外に出て、また中に入っていき子もいて、何回も楽しんでいました。大学祭が終わった後にダンボール迷路は地元の若草幼稚園に移送し、今も園児たちの大きなおもちゃとして活躍しています。

この木工教室は、学生が地域の人と関わるだけでなく、親子がコミュニケーションをとることのできる場でもあるので、毎年参加している親子もたくさんいます。去年来てくれた子が自分のことを覚えてくれたときは、毎年活動を行っているよかったです。来年も喜んでもらえるものを作ろうという意欲も湧いてきます。今後もこのような活動を通して地域の人との交流を深めたいと思います。



## ★ 開学10周年記念講演会

入場無料

本学は平成11年4月に開校し、「次代を担う人材の育成」、「開かれた大学として本県の持続的発展に貢献すること」を基本理念に掲げ、地域に根ざした大学を目指してまいりましたが、このたび開学10周年を迎えることとなりました。

それを記念いたしまして、本県出身で国連事務次長を勤めたこともある明石康氏の講演会を開催いたします。



Yasushi Akashi

● 明石康(あかし・やすし)氏/プロフィール  
 東京大学卒、ヴァージニア大学大学院修了。1957年国連入り。広報や軍縮担当の国連事務次長、カンボジアや旧ユーゴスラビア担当の事務総長特別代表を歴任。1997年末、人道問題担当事務次長を最後に退官。現在、スリランカ平和構築担当日本政府代表、(財)ジョイセフ(家族計画国際協力財団)会長、日本紛争予防センター会長、立命館大学大学院、国際教養大学客員教授等を務める。主な著書に「国際連合—軌跡と展望」(岩波新書)、「戦争と平和の谷間で—国境を超えた群像」(岩波書店)など。

講師	元国連事務次長 <b>明石 康氏</b>
講演テーマ	「秋田の未来について」(仮)
日時	平成21年6月5日(金)
講演	PM1:30~(受付開始:PM1:00~)
会場	秋田キャッスルホテル 秋田県秋田市中通1丁目3番5号
対象	一般県民

### 講演会参加申し込み方法

はがき又はFAXにてお申し込み下さい。後日、本学事務局より入場整理券を発送いたしますので、当日入場の際に必ずご持参願います。また定員になり申込みを締め切った場合は、その旨をご連絡いたします。  
 大変申し訳ありませんが、電話でのお申込はお受けできませんのであらかじめご了承下さい。

#### ●はがきでお申込の場合

住所・氏名・電話番号を明記の上、下記宛先までお送り下さい。  
 〒010-0195 秋田市下新城野字街道端西241-438  
 秋田県立大学  
 企画・広報本部「開学10周年記念講演会申込」係

#### ●FAXでお申込の場合

住所・氏名・電話番号と「開学10周年記念講演会申込」を明記の上、  
**FAX.018-872-1670** まで送信して下さい。

●応募締め切り/5月21日(木) 必着

●お問い合わせ/秋田県立大学 企画・広報本部 TEL.018-872-1500 E-mail:koho\_akita@akita-pu.ac.jp

## ★ 開学10周年記念募金事業

秋田県立大学は平成21年6月5日に開学10周年を迎えます。記念行事を行うほか、それにむけた募金活動を進めています。

#### 【目的】

1. 秋田県内出身者を経済支援するための独自奨学金制度創設
2. 交流協定締結海外大学との学術交流・留学生交換の促進

【募金目標額】1億円

【募集期間】平成22年3月31日まで



●募金趣意書・振込(払込)用紙をご希望の方は、下記まで住所・氏名・電話番号をお知らせください。

#### 地域連携・研究推進センター

担当:進藤、渡辺 TEL.018-872-1557 E-mail:chiken@akita-pu.ac.jp



<http://www.akita-pu.ac.jp/>

E-Mail: koho\_akita@akita-pu.ac.jp

【秋田キャンパス】●本部・生物資源科学部 ●大学院/生物資源科学研究科  
 〒010-0195 秋田市下新城野字街道端西241-438 TEL.018-872-1500 FAX.018-872-1670

【本荘キャンパス】●システム科学技術学部 ●大学院/システム科学技術研究科  
 〒015-0055 由利本荘市土谷海老ノ口84-4 TEL.0184-27-2000 FAX.0184-27-2180

【大湯キャンパス】●生物資源科学部(アグリビジネス学科3・4年次)  
 〒010-0444 南秋田郡大湯村字南2-2 TEL.0185-45-2026 FAX.0185-45-2377

【木材高度加工研究所】  
 〒016-0876 能代市宇海詠坂11-1 TEL.0185-52-6900 FAX.0185-52-6924

